

山口県公立大学法人評価委員会（第19回）の審議要旨

- 1 日 時 平成24年8月2日（木） 10:00～12:00
- 2 場 所 山口県庁共用第2会議室
- 3 出席委員 牛見委員長、岸本委員、樋口委員、二木委員、松浦委員（50音順）
- 4 審議事項
 - (1) 委員長選出
 - (2) 平成23年度業務実績に関する評価について
 - (3) 第1期中期目標に係る業務実績に関する評価について
 - (4) 平成23年度の財務諸表等について
- 5 審議要旨 [● 委員 ◇ 委員長 □ 法人 △県]

・委員長については、委員の互選により、牛見委員が再選された。

【評価方法】

- 数値目標の達成率が100%に達していないもので、評価が4点（十分達成）となっている項目は、他のファクターも加味して、このような評価となったのか。
- 達成率90%を3点（標準）とし、100%以上120%未満を4点、120%以上を5点（十二分に達成）とすることを基本としているが、100%超の実績が想定されない項目（例：国家試験合格率100%）については、100%で5点、90%以上95%未満で3点、95%以上100%未満で4点という目安を設けて判断している。
- 実績に比べて自己評価が厳しすぎるのではないか。頑張った部分が適切に評価に反映されるよう、実態を表す形での評価基準を検討していただきたい。
- 大きな期待に応える意味もあって、目標を幾分高く設定している点があり、その評価結果が3点とはなっているものの、きっちりと取組を行い、評価した「実を伴う3点」であるという自負は持っている。なお、公立大学は文部科学省から高い評価を得ているが、その理由は、公立大学が評価をシビアに行っているからだと思っている。

【教育・研究】

- 平成23年度の「他大学との単位互換実績」が0となっているが、何か理由があったのか。
- 他大学が遠隔にあり、加えて23年度は通信機器の不調もあった。なお、「地域学」のように単位互換協定締結校との共同開講科目として運用しているものは、単位互換の実績には上がらなかった。

- 若者のコミュニケーション能力の不足を感じることが多い。そのため、若者のコミュニケーション能力の強化や倫理観を醸成する視点での教育内容の見直し等も含め、教育の質の向上に努めていただきたい。
- 本学の理念（人間の尊重、共生等）に基づき、「生命と倫理」の講義をはじめ、学生とのランチトーク、開学祭での講話、メルマガ等を通じて普遍的な倫理教育は行っている。大事なことではあるが、情報として伝えて、後に思い出してもらえれば、十分ではないかと考えている。

- 生活科学部で2名中2名が留年となっているが、どういった理由でこうなっているのか。
- 生活科学部は既に募集を停止し、在學生は2名となっている。当該2名は心身の課題を抱えており、休学となったため留年という形になった。

- 教職員のベンチャー起業支援として、教職員のスキルアップは必要と思うが、学生への知識還元の場合は設けられているのか。
- 商工会議所との共催による起業家セミナーへの参加を勧めるなどしている。また、ベンチャーではないが、NPO・NGOの設立・運営について教授する授業科目を開講している。

- 前回の評価委員会で、看護学科の志願者数が減少している原因については調査中との話だったが、今、分かるのであれば教えていただきたい。
- 前年度の倍率が高いと翌年度は敬遠されて倍率が下がる。倍率が下がると翌年は志願者が増えるという周期が1つある。昨年度は、倍率が下がる年であったことに加えて、島根県立大学において看護学科の新設があり、そこに中四国の受験生が集中したこと等によるものと考えている。

- シラバスについては、担当教員が授業評価を反映させて作成し、学部(学科)長が確認する形を継続的に行っていると思うが、その経過と、もし問題点があれば教えていただきたい。
- 担当教員が作ったシラバス案を、学部(学科)長がオンラインで閲覧し、OKを出さないと次のステップに進めないという仕組みを作っている。また、授業評価等を活用したシラバス改善等について、FD等で周知徹底を図った。なお、授業評価の活用状況について調査したところ、授業改善に役立てているという反応も得ている。

【学生支援】

- 今、折角就職しても離職率が高いということがよく言われているが、卒業後の状況を把握する取組を何かしているのか。
- 悉皆把握までは出来ていないが、各学部において同窓会的な組織を立ち上げ、年に1回、互いの情報交換を行ったり、近況を伺うような機会を設けている。

- 学生相談室の利用件数が、平成22、23年と増えており、特に23年度は前年度比3割も

増加しているが、何か要因があるのか。

- 学部別では、国際文化学部が増加しているが、独自に相談室利用に関する研修を行ったこと等によるところが大きい。相談内容別では、進路、就活に関わる相談が増加しており、学生の関心事を反映したものと考えられる。
- 看護師の安定的な確保に向けて、学生に対し、大学独自で何らかの経済的な支援策があると良いと思う。
- 看護に的を絞ったような形のものはないが、各学科の成績優秀者に年10万円を給付する制度を設けている。

【地域貢献】

- 高齢化の進展に伴い、社会福祉・看護関係に従事する人材は、これからますます必要とされる。ぜひとも定員を増やして、優秀な人材をもっと輩出していただきたい。
- 県内出身の方が県内に定着しやすいことから、入試戦略検討委員会において、県内高校生に本学に目を向けてもらう方策を検討している。定員については、昨年度の志願者減少や今後、高校卒業者の減少が見込まれることなども含めて考えていく必要があると思っている。
- 県民が健康で安全に生活していける県づくりに向けて、県に積極的に政策提言する等、シンクタンク機能を十分発揮していただきたい。
- 中山間地域づくりや生涯現役社会づくり等については、県からの受託事業の中で、提言等を行っている。今後は、大学独自でどのような提言をしていくかが課題だと思っており、期待に応えるべく頑張っていきたい。

【国際交流】

- 今後、国際交流については、単に交流するというだけではなく、地域社会への成果の還元の視点を持って、取組を進めていってほしい。
- 国際交流については、立ち上がってからあまり時間が経っていないため、特筆すべき具体的成果の還元は今後の課題であるが、ラップランド大学との交流（デザイン、社会福祉）については思った以上に上手く進んでいる。出来るだけ早く、期待に応えられる成果を出していきたいと思っている。

【業務運営】

- 人事評価制度について、管理職の教員を対象に試行を行ったとのことだが、その状況や試行の結果見えてきた課題を教えてください。
- 22年度に具体的な検討を開始し、人事委員会での意見、教職員への説明での意見を踏まえ、専門業者に委託して試行案を作った。23年度は、5～6月に研修会・説明会を開催して

目標を設定し、3月に自己評価と評価者による評価を行っている。

24年度は23年度の結果を踏まえて再度試行を行い、対象者へのアンケート調査なども行いながら、来年度からの本格実施に向けた評価要領を完成させたいと考えている。

課題としては、「設定する目標の難易度」と「自己評価のレベル」の平準化が重要であり、ある程度の均しは出来たので、それを今年もう1度やって平準化していくことが必要と考えている。

なお、一般職員についても、管理職のフレームをベースに、必要な差別化をして、25年度からの試行に向けた準備をしていきたい。

- 上水使用料の欄に「漏水の影響」と記載してあるが、どういった事象だったのか。
- 国道9号南側の本部キャンパスは、施設が築30～40年経過しており、老朽化により漏水が発生したものである。

【財務諸表】

- 注記の減価償却の会計処理方法で、建物、構築物の耐用年数が「1年～」と記載されているが、1年という耐用年数は存在しない。何か特別な事情があるのか
- 法人化に際して県から承継した建物等の耐用年数は、承継時の残耐用年数により整理することとしており、実際に残耐用年数が1年のものがあったことによるものである。

以 上